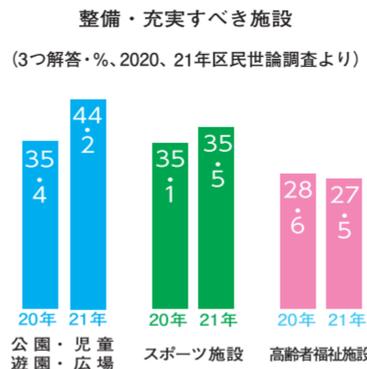


2期8年 赤ちゃんからお年寄りまで もっとやさしく住みよい千代田区に 全力をあげてきました 牛尾こうじろう

公園・遊び場の整備・充実にねばりづよくとりにくんでいます

「子どもの遊び場増やして」の願いに応えます

私は3人の子どもを連れて、公園に出かけるたびに、子どもが思いっきり身体を動かせる公園・遊び場が身近にあればと感じてきました。党区議団の区政アンケートにも、ボール遊びのできる公園などを望む声が多数寄せられました。区民の要望は高まるばかりです（グラフ参照）。



みなさんの声を取りあげ、繰り返し提案

区が整備した「遊び場」は、いずれも利用期間や時間が限られています。



「くだんしたこどもひろば」は11月で閉鎖

本腰を入れた遊び場対策が必要です。私は区議会で繰り返し提案してきました（表を参照）。

- 1 神田地域に恒常的な遊び場の設置
- 2 ミニバスやスケボーの練習ができるよう場所の整備
- 3 ふじみこどもひろばの平日開放
- 4 児童館の日曜開放の拡充

共産党が遊び場条例を2回提案。自・公・都ファは否決

共産党区議団は遊び場条例を2回提案しました。（2019年：遊び場整備の目標を持つこと。2022年：遊び場の提供は“大人の役割”と規定すること）

しかし、自民、公明、都民ファーストなどは「今のままで十分」などと否決しました。区ができることはまだまだあるはず。遊び場確保のために力をつくします。

このほかにも

子育ての願い実現に全力 日本共産党区議団 —今期(2019年4月)からの活動—

- 区立学校のトイレ個室に生理用品を設置するよう求め、実現しました。
- 子育て世帯の負担を軽減するため、国民健康保険料の子どもの均等割を廃止する国保条例の一部改正を提案しました。

学校給食無償化をくりかえし提案

—千代田の子どもたちを区民みんなで健やかに—

コロナ禍や物価高騰のもと、共産党区議団の区政アンケートには、ひとり親世帯の方から「どこまで稼げるようになれば楽になるのかと頭が痛くなる」との悲痛な声が寄せられています。

私は子育て支援と、「義務教育は無償」の立場で区議会で6回学校給食無償化を求めましたが区は拒否しました。2022年第4回定例区議会で、党区議団は他会派と共同して、学校給食無償化の条例を提案。しかし、自民、公明、都民ファーストなどが反対し否決しました。

東京23区でも、葛飾区が無償化に踏み切ります。千代田区での無償化には約2億5千万円が必要ですが、区が2021年度使い残した税金17億円の一部を活用すれば実現可能です。さらに全力をつくします。



区議会本会議での一般質問 (2020年11月)

子育ての願いを届けるなら牛尾こうじろう

子ども医療費無料化

2006年に共産党区議団が「中学3年生までの医療費を無料にする」条例案を提出したとき、私は、区民のみなさんと一緒に署名運動にとりくみました。

その後も党区議団は区民のみなさんと力を合わせ、ねばり強く条例提案と質問を繰り返し、高校3年生まで一歩一歩広げてきました（表を参照）。

認可保育所の増設

私の区議会初質問は、保育園の待機児対策でした。初質問から8年の間、認可保育所が13カ所増え、保育士の処遇改善も進みました。

子ども医療費無料化の前進

1992	共産党区議団が区議会で質問
1993	3歳までの無料化が実現
1995	就学前まで無料化
2007	中学3年生まで無料化
2011	18歳まで無料化

三上ゆう子さん (外神田在住)

お願いを託せる人です。

り援拡いを
上げ先や充る育私
る日ひや牛てと
な給はひとり尾な
ど食はとさんが
子食親は、ら3
育無世は、議人
て償帯遊、員の
化へ遊、をの
も無償遊びをさ
代もへの場され
の取支の場て

千代田区内に特養ホーム整備、駅のバリアフリー化を求め

私は1992年に日本共産党に入党して以来ずっと、党区議団や区民のみなさんと、住みよい千代田区をめざしとりにくできました。特養ホームの整備を求める運動は、いきいきプラザ一番町、かんだ連雀に実りました。

また、地下鉄半蔵門駅や淡路町駅、神保町駅、末広町駅のバリアフリー化を求める署名運動にみなさんといっしょにとりくみ、実現しました。

受診率を示し、がん検診の無料化の道ひらく

がんの早期発見に効果があるがん検診を、区は2004年に有料化しました。私は、区が無料クーポンを発行した年齢で受診が増えていることや、無料にしている区と比べ千代田区は受診率が低いことを示し、区民の声も紹介し繰り返し無料化を要求。区から「無料化を考えていきます」との答弁を引き出し、2019年からの無料化復活の道を開きました。

区内のお米屋さんの願いが実現

コロナで収入が激減するなか、お米屋さんから「せめて学校給食で区内の業者を利用してほしい」との切実な声が寄せられました。私は区議会で実現を迫りましたが、区は「要望がない」と拒否。

その後、お米屋さんたちが区議会への陳情にとりくみました。これを受け私が再び区議会で実現を迫ると、区は「学校が判断するなら利用します」と答弁。お米屋さんたちの願いが実現しました。

区内事業者Kさん

し、たて道食談に
た、いががつでのこ
めに引す。つく私のら
に引す。す。くれたの
き続神田のまの米
き頑の事した。の納
張っ業者感の校
つて者謝入の
てのしほの給相

安定した住まい確保へ—公共住宅の増設を

「区の家賃助成は65歳以上でないと使えず、区外に引っ越した」「自営で年金額は少ない。申し込める公共住宅がない」などの声にこたえ、私は、公共住宅の増設を繰り返し求めました。

区は「他区にくらべ公共住宅の割合は多い」ことなどを理由に、こたえようとしません。

住まいは人権です。区営住宅を増やすため、民間賃貸住宅などの借上げなどを進め、それらを区営住宅化します。